

東京工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	情報工学概論	
科目基礎情報						
科目番号	0041		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科		対象学年	2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Webによる教材の提供					
担当教員	吉本 定伸					
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> 必要とされる資料の作成ができる 情報に関する基礎的な知識等を知る 						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
必要とされる資料の作成ができる	必要な課題を十分に行うことができる	資料に基づいて、与えられた課題を行うことができる	与えられた課題を行うことができる	与えられた課題を完遂できない		
情報に関係する基礎的な知識等を知る	関連する内容について自ら考え調査するなどし、まとめることができる	関連した内容についてまとめることができる	関連した基礎内容をまとめることができる	関連する内容についてまとめることができない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	情報工学科についてより広く深く知り、今後学んでいく上で必要な知識やスキルを身につける。ICTを活用し、報告のための資料作成や発表を通じたコミュニケーション力を身につける。また、C言語以外のプログラミングを手段としたもの作りを体験し、並行して開講されるプログラミング言語 (C言語) と合わせて、プログラミングの考え方を身につける。					
授業の進め方・方法	本科目は、今後情報工学科で学んで行く上での知識、方法や手段、考え方などの基礎となる部分を担う科目となる。用意された資料などをもとに自主的に進める。授業時間内で終わらない場合は時間外も利用する。					
注意点	課題・提出物などは必ず期限までに提出すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 授業準備, 学科の概要説明	本科目の概要や授業の進め方が分かる。情報工学科の特徴について知る。		
		2週	ワード・エクセル・パワーポイントの活用 (1)	ワードやエクセル、パワーポイントを利用した報告書等の資料を作成できる。		
		3週	ワード・エクセル・パワーポイントの活用 (2)	ワードやエクセル、パワーポイントを利用した報告書等の資料を作成できる。		
		4週	ワード・エクセル・パワーポイントの活用 (3)	ワードやエクセル、パワーポイントを利用した報告書等の資料を作成できる。		
		5週	アプリケーションの制作 (1)	Visual Studio等を利用し、簡単なアプリケーションを制作することができる。		
		6週	アプリケーションの制作 (2)	Visual Studio等を利用し、簡単なアプリケーションを制作することができる。		
		7週	アプリケーションの制作 (3)	Visual Studio等を利用し、簡単なアプリケーションを制作することができる。		
		8週	調査準備	何について調べるのかをまとめることができる。		
	2ndQ	9週	調査 (1)	調べることについて、調査することができる。		
		10週	調査 (2)	調べることについて、調査することができる。		
		11週	調査 (3)	調べることについて、調査することができる。		
		12週	報告資料の作成 (1)	パワーポイントを利用し、資料の作成ができる。		
		13週	報告資料の作成 (2)	パワーポイントを利用し、資料の作成ができる。		
		14週	発表 (1)	調べたことを他者に報告することができる。		
		15週	発表 (2)	調べたことを他者に報告することができる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	情報系分野【実験・実習能力】	情報系【実験・実習】	与えられた問題に対してそれを解決するためのソースプログラムを、標準的な開発ツールや開発環境を利用して記述できる。	4	
				ソフトウェア生成に利用される標準的なツールや環境を使い、ソースプログラムをロードモジュールに変換して実行できる。	4	
				ソフトウェア開発の現場において標準的とされるツールを使い、生成したロードモジュールの動作を確認できる。	4	
				問題を解決するために、与えられたアルゴリズムを用いてソースプログラムを記述し、得られた実行結果を確認できる。	4	
評価割合						
			提出物等	合計		
総合評価割合			100	100		

基礎的能力	0	0
專門的能力	100	100
分野横断的能力	0	0